

議 事 録

会 議 名	令和6年第3回千種警察署協議会（定例会）
日 時 ・ 場 所	令和6年8月21日（水） 午後1時30分から午後3時30分までの間 ----- 千種警察署 講堂
出 席 者	1 委員 伊東 洋平 会長、黒木 真知子 副会長、 西垣 智康 副会長、北川 則子 委員、加藤 卓男 委員、 堀 仁美 委員、佐々木 昭雄 委員、渡邊 美穂 委員、 難波 太一 委員、貝塚 琴美 委員 以上 10名（定数12名） ----- 2 警察署員 加藤署長、稲垣副署長、岩橋警務課長、 伊藤会計課長、村田生活安全課長、岩田地域課長 川崎刑事課長、石原交通課長、加藤警備課長 以上 9名 ----- 3 有識者等 なし
諮 問 事 項 等	「自転車のヘルメット着用向上に向けた対策」について
答 申 等 の 概 要	ヘルメット未着用者に対する指導啓発活動の推進 企業や学校等と連携したヘルメット着用の定着化に向けた取組の推進 イベント等を活用した自転車ヘルメット着用に向けた効果的な広報啓発活動の推進
そ の 他	○ 次回開催予定 令和6年11月下旬頃

会議の経過及び発言の要旨	
1	署長挨拶
2	各種報告
	(1) 管内の犯罪発生状況（生活安全課長説明）
	(2) 管内の交通事故発生状況（交通課長説明）
	(3) 可搬式速度違反自動取締装置について（交通課長説明）
3	前回の答申に対する具体的施策の推進状況（警備課長説明）
	(1) 諮問事項
	「千種警察署の災害警備活動」について
	(2) 答申事項
	幅広い対象者に対する災害警備広報活動の実施
	(3) 推進施策
	ア 幅広い年齢層に対する災害警備広報
	(ア) 千種区総合水防訓練
	千種区総合水防訓練において、住民の避難誘導等を行い災害警備広報を実施した。
	(イ) 千種安全運転管理協議会総会
	千種安全運転管理協議会総会において、安全運転管理者に対して災害対策広報チラシを配布し、災害警備広報を実施した。
	(ウ) 年金支給日キャンペーン
	店舗ATM付近で実施した年金支給日キャンペーンにおいて、来店した高齢者を中心に災害対策広報チラシを配布し、災害警備広報を実施した。
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
(I) 災害警備広報	
	管内店舗入り口に災害対策広報チラシを掲示し、来店者に対して災害警備広報を実施した。
(オ) 災害警備広報	
	管内店舗の来店者に対して災害備蓄品の展示及び災害対策広報チラシを配布し、災害警備広報を実施した。
イ 外国人に対する災害警備広報	
(ア) 専門学校への広報	
	管内の専門学校において、ネパール人、スリランカ人、ベトナム人、ミャンマー人等に対して、災害対策広報チラシを配布し、災害警備広報を実施した。
(イ) 日本語学校への広報	
	管内の日本語学校において、ネパール人、スリランカ人、ウズベキスタン人、バングラデシュ人等に対して、災害対策広報チラシを配布し、災害警備広報を実施した。
4 協議	
委員	・ 先日参加したイベントにおいて、愛知県警察第一交通機動隊自転車対策小隊「Bフォース」の説明を受け、ヘルメットの重要性をよく認識できた。今後もイベント等を活用し、ヘルメット着用の重要性について広報するべきだ。
	・ 名古屋市ではヘルメット購入に対し補助金が出るということを知ると良い。(2人の委員から同様の発言がなされた)
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事故状況の写真を活用する等、ヘルメットを着用していない場合の事故の悲惨さを訴えるようなチラシ等を作り広報すると良い。 		
	(2 人の委員から同様の発言がなされた)		
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルメットは暑い、重い、かさばる、持ち運びが困難であるため使いづらい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人が子供を後ろに乗せて自転車に乗っているのを見かけるが、子供はヘルメットをかぶっているのに、大人はかぶっていないことが多い。(1 人の委員から同様の発言がなされた) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の専用道路があるが、幅が狭い。道路環境の整備も必要である。 		
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員に対し、ヘルメットをかぶった方が良いと思うかと聞くと、かぶった方が良いと答えた。しかし、実際に自分がかぶっているかを聞くと4分の1しかヘルメットをかぶっていなかった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車を購入する際、ヘルメットとセットで販売できるように企業に働きかけてみてはどうか。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通違反として罰則を設けない限り、ヘルメットの着用率は増えないのではないか。 		
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話を聞かせるだけでなく、バーチャル・リアリティ(V R)体験をさせる等して実際に危険性を体感してもらおうと良いのではないかと。体験活動を地道に行ってもらいたい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に若い人は自転車でもスピードが速く危険である。学校と連携して対策を講じてもらいたい。 		
	<table border="1"> <tr> <td>記録者</td> <td>警務係長</td> </tr> </table>	記録者	警務係長
記録者	警務係長		

会議の経過及び発言の要旨	
委員	・ かぶりたくないと考えている人たちにどうやってかぶらせるのかを考えないといけない。
委員	・ 子供の頃からヘルメットをかぶることが習慣になっていると、大人になってからもヘルメットをかぶることが当然という感覚になっていくのではないか。今の子供たちが大人になったときに着用率があがるよう地道に活動してもらいたい。
	・ ヘルメットを自転車のかごに入れておくと盗まれてしまうことがある。自転車本体にヘルメットをロックできるような機能があると良い。(1人の委員から同様の発言がなされた)
委員	・ ヘルメットをかぶるのが当たり前になるよう、大人が見本を示す。
	・ モデル校やモデル事業所等を指定し、ヘルメットを着用させる。
委員	・ ヘルメットの安全性について広報する。自転車競技選手等による広報やヘルメットをかぶることが好印象となる動画等、マイナス面だけではなくプラス面についても広報をすると良い。
委員	・ ヘルメットをかぶらない人はきっかけがないとかぶらない。警察官が呼び止めて指導をすればヘルメットをかぶる良いきっかけになるのではないか。
委員	・ 工事の現場ではヘルメットは確実にかぶる。かぶることが当然となっている。しかし、自転車のヘルメットをかぶることには抵抗がある。
	・ オーストラリアではヘルメットをかぶらないと罰金で50ドルとられる。子供も大人もみんなヘルメットを当然のようにかぶっている。
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
る。日本でも取締りの対象にすると良いのではないか。	
5	答申
(1) ヘルメット未着用者に対する指導啓発活動の推進	
(2) 企業や学校等と連携したヘルメット着用の定着化に向けた取組の推進	
(3) イベント等を活用した自転車ヘルメット着用に向けた効果的な広報啓発活動の推進	
6	その他
次回の開催予定は、令和6年11月下旬頃とする。	
記録者	警務係長